

Title	The Oxford Classical Dictionary., Edited by M. Carry, J. D. Denniston, J. Wight Duff, A. D. Nock, Sir David Ross, H. H. Scullard., With the assistance of H. J. Rose, Sir Paul Harvey, A. Souter
Sub Title	
Author	森岡, 敬一郎(Morioka, Keiichiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1951
Jtitle	史学 Vol.24, No.4 (1951. 4) ,p.138(578)- 139(579)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19510400-0138

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

てゐる。この序説の最後の部分に於て彼は「國家論」の基本的概念を現はす幾つかの單語につき(例へば *politeia*, *politeuma*, *kyrion* 等)その意味を詳細に説明し、これらの單語が似寄つた現代語に反譯せられる場合に生じ得る誤解の防止に極めて適切な處置を取つてゐる。この部分は俄々ギリシヤ研究の初學者にとつては極めて貴重である。

又本文には豊富な註解が附されてゐる。が、この註は本文の異讀に關する文獻學的な性質のものは少く、主として本文の主要概念に對してアリストテレスの他の著作の記述を以てする説明若くは他の著作者の思想との異同又は類似を指摘するものであつて、要するに一般讀者に「國家論」の内容を正しく讀む爲の手引として附されてゐるのである。特に本文の章末に附された比較的長い註には極めて有益なものが多い。

最後に附録はアリストテレスの他の著書から「國家論」の理解に必要不可欠と考へられる部分を抜粹反譯したものであり、第一部には「倫理學」及「修辭學」中の彼の政治學の概念を示す記述が、第二部には彼の正義、法、衡平の諸概念を示す部分、第三部には政體分類に關する部分、第四部には「アテナイ人の國制」よりアテナイ制度史の大綱を明にする部分、夫々反譯せられてゐる。又第五部にはアリストテレスの著作からの政治に關する逸文が集めてある。

以上の如くこの譯書は「國家論」を出來得る限りアリストテレスの考へたままの姿で讀者に傳へようとするもので、彼の豊富な説明は皆この意圖に貫かれてゐるのである。唯我々として稍不滿を感ずるのは比較的我々の智識の不充分な地名・人名等に關する説明や史的考證に類する註が殆んど皆無といつてよい。要するに一九〇六年 *The Political Thought of Plato and Aristotle* の著書を以て學界にデビューした譯者の長年の研究の成果が結實したものといつてよいであらう。(森岡敬一郎)

The Oxford Classical Dictionary.

Edited by M. Cary, J. D. Denniston,
J. Wight Duff, A. D. Nock, Sir David Ross,
H. H. Scullard.
With the assistance of H. J. Rose,
Sir Paul Harvey, A. Souter.
Oxford 1950.

本書は主として古典文學研究者のためにギリシヤ・ローマの藝術・文學・考古學・地理學・歴史・神話・宗教・科學等の文化の諸方面に互る内容を一冊に所収した最新の古典辭典である。本來一九三三年に大體 Lübker の *Reallexikon* 第八版(一九一四年)を模範として編纂が計畫せられたが、今次大戰のために完成が遅れ、一九四八年に完成し翌四九年に刊行された。その模範とした

Libker と相異する點は本書が人名及び文學的方面により詳細で地理及び文獻學的方面に於ては簡略な點にある。本書の一の特徴は重要な項目には相當に長い説明が與へられてゐること、歴史に特に深い項目としては Law and Procedure, Rome; Rome (History); Greece (History); Lex (leges); 等があり數頁をさいている、大體古典文學研究者を目的として作られたもの故純粹史學の方面の項目の説明は概ね短く、特にギリシヤの制度に關する説明の取扱には不滿な點が多いように思はれる。各項目は編纂者及び他の一六一人の寄稿者の手になり、寄稿者中には V. Ehrenberg, F. H. Heichelheim, Nils Nilsson, 等幾多の著名の者の名が見受けられる。簡略とは言へ各項目には戰時中にも續行せられた研究の成果が取入れられて居り、特に各項目に附せられた文獻案内は良く精選せられていて、戰時以來ヨーロッパの學界より完全に遮斷されてゐた我々にとつては、現時の最高の研究の所在を示して呉れる意味で重要であらう。尙本書は大體 Constantinus 帝の死 (337. A. D.) までは取扱つてゐるが、その以後の人物でも特に古典研究に重要と思はれる Augustin, Eustathius, Photius, Psellus, Thomas Magister, Triclinius, Tzetzes, は所収されてゐるがキリスト教的作者は古典文化に特に關係なき限り所収されてゐない。

(森岡敬一郎)

書評

國立臺灣大學「文史哲學報」第一期

戰爭の間、我々は中國の學界と切斷され、その消息は不明であつた。そこで戰後、平和の回復されると共に中國學界との交流は痛切に期待されたのである。然るに不幸なる現狀はそれに反して依然として極めて僅かな相互の流通が存するのみである。此所に紹介する雜誌もその意味に於いて大いに貴重視されるであらう。

本雜誌は民國三十九年(一九五〇年)六月に臺北の國立臺灣大學文學院より出版され、同大學副教授陳荊和氏の好意により逸早く慶應義塾大學文學部史學研究室に寄贈されたものである。

編輯は文史哲學報編輯委員會によつてなされ、傅斯年氏を名譽編輯に戴き、毛子水、方豪、王國華、李濟、沈剛伯、英千里、董作賓、陳康、臺靜農、劉崇鋳の十氏が編輯に名を列ねてゐる。その徵稿簡約によれば臺灣大學の教授、副教授、講師及び助教の論文を登載すると言ふから、まづ現在の中國に於ける第一流の學術雜誌と言へよう。尙刊行は年二回、六月と十二月の發行と暫定されてゐる。

さて創刊第一期たる本號には、(一)董作賓「湯盤與商三戈」、(二)凌純聲「記本校二銅鼓兼論銅鼓的起源及其分佈」、(三)李濟「中國